

昭和興産

昭和興産は2020年度(20年12月期)を最終年度とする5カ年の中期経営計画をスタートした。海外とくにアジアでの事業拡充と営業力強化、国内事業基盤の強化、事業構造の変革を推進する重宝テーマに掲げ、国内と海外の単純合算で売上高1000億円以上を目指す。目標達成へ向けて新たに新規事業開発部、海外事業部を設置したほか、中国・広州に新拠点を立ち上げた。17年4月の稼働をめぐりERPシステム導入の準備も進めている。

新中計は「SK2020 価値創造企業への挑戦」(日本・アジアで変革と進化を目指して)。(初年度の)今期は「米年度以降に大きく飛躍するための基礎を固める年」(田淵明雄社長)と位置付ける。

重点テーマのうち海外ビジネスは現地法人(タイ、上海、インドネシア、香港)の売上比率を10%以上にする

1000億円企業へ中計始動

目標を掲げる。広州の新拠点(昭興産(上海)貿易有限公司の弁事処(連絡事務所)として4月14日付で開設した。昭和興産(香港)有限公司と連携しながら華南地区の顧客に対してきめ細かなサービスを提供する。

14年6月に設立した昭和興産インドネシアも日用品関係を中心に売り上げが増大傾向にある。本社事務所の下に倉庫を確保するなど「現地の細かなニーズに対してスムーズに対応できる」機能に対する評価は高く、これに因應べく現地スタッフの増員も行っている。

新規事業は売上高100億円規模を目標に積極育成する。ターゲット分野は再生可能エネルギー、食品、高齢者向け市場、都市インフラなどで、インドネシアで現地企業とアグリビジネスも手掛け始めた。